



あっとわんは子育て支援の団体です。親と子のエンパワメントを応援しています。 2015年10月23日発行 46,370部



## 11月は児童虐待防止月間です

子どもの虐待に関する通報は毎年多くあります。残念なことに、虐待による死亡事例は年間50件を超え、1週間に1人の子どもが命を落としています。

地域での関係が希薄になっているといわれていますが、「気軽に声を掛け合う」ということを躊躇せざるを得ない状況になっていることも否めません。

【ちょっとした声掛け】と【おせっかい】の発信も大切ですが、それを受信する子育て世代の人との関係を作っていく仕掛けや地域のあり方も併せて考えていく必要を感じています。

地域社会が少しずつ変化をしながら、今の状況になっていると思われるため、すぐに改善されることは難しいかもしれませんが、地域でのコミュニケーションが増え、虐待を受けている子どもたちが減っていくことを願うばかりです。

毎年11月は児童虐待防止月間ということで、深く考えていく時間を持てるといいなと思います。

### 虐待相談対応件数

児童相談所における児童虐待相談対応件数は22年間で約60倍にもなっています。

### 虐待の種類

#### 身体的虐待

保護者が子どもに、殴る、蹴る、水風呂や熱湯の風呂に沈める、カッターなどで切る、アイロンを押しつける、首を絞める、やけどをさせる、ベランダに逆さづりにする、異物を飲み込ませる、厳冬期などに戸外に閉め出す、などの暴行をすることを指します。子どもは、打撲や骨折、頭部の外傷、火傷、切り傷などを負い、死に至ることもあります。

身体的虐待は、周囲から分かりやすく、顕在化しやすいのですが、注意が必要なのは、洋服の下に見えない部分にだけ暴行を加えるタイプもあることです。着替えや診察の資格を有する方は、少しでも様子がおかしいと感じたら、目で確認できる顔や腕、足にけがをしていなくても、洋服の下を見てください。

#### 心理的虐待

心理的虐待は、大声や脅しなどで恐怖に陥れる、無視や拒否的な態度をとる、著しくきょうだい間差別をする、自尊心を傷つける言葉を繰り返し使って傷つける、子どもがドメスティック・バイオレンスを目撃する、などを指します。子どもの心を死なせてしまうような虐待、と理解すると良いと思います。

#### 性的虐待

子どもへの性交や、性的な行為の強要・教唆、子どもに性器や性交を見せる、などが上げられます。性的虐待は、本人が告白するか、家族が気づかないとなかなか顕在化しません。実父や義父などから「お母さんに話したら殺すぞ」などと暴力や脅しで口止めをされているケースも少なくありませんし、開始年齢が早いと子どもは性的虐待だと理解できないこともあります。私たちは、性的虐待なんて起こるはずがない、と思いがちですが、実際に乳幼児時期から発生していますので、注意を払ってください。性的虐待は、実母や義母などの女性から男の子どもに対しても起こります。

### ネグレクト

保護者の怠慢、養育の放棄・拒否などと訳されています。保護者が、子どもを家に残して外出する、食事を与えない、衣服を着替えさせない、登校禁止にして家に閉じこめ、無視して子どもの情緒的な欲求に応えない、遺棄するなどを指し、育児知識が不足してミルクの量が不適切だったり、パチンコに熱中して子どもを自動車内に放置する、なども入ります。乳幼児や年齢の低い子どもに起こりやすく、安全や健康への配慮が著しく欠けたために、子どもが死に至るケースもあります。病气なのに病院に連れて行かない、医療ネグレクトも存在します。

虐待の背景には、様々な要因が複雑に絡み合っています。人とつながり、子育てへの価値観、子育てをする人の自己肯定感の問題、子育てする人の周りの人たちの価値観や繋がる力・・・など、課題はたくさんあるように感じますが、なにより子どもたちの心身の健全な発達を願い、つながり、コミュニケーションがとれていくようになるといいなと思います。

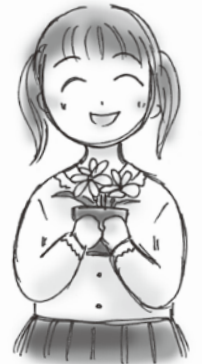
### 虐待に関するおすすめ本

- 『ネグレクトーなぜ真奈ちゃんは死んだのかー』 杉山春著 小学館
- 『ルポ虐待ー大阪2 児童置き去り死事件ー』 杉山春著 ちくま新書

### オレンジリボン運動とは

NPO法人児童虐待防止全国ネットワークが総合窓口を担っている児童虐待防止の広報・啓発活動です。

オレンジリボン運動は、「子ども虐待のない社会の実現」を目指す市民運動です。オレンジリボンは、そのシンボルマークであり、オレンジ色は子どもたちの明るい未来を表しています。子ども虐待の防止は、児童相談所や市町村などの公的機関だけ行えるものではありません。



わたくし事ですが、最近ゴルフを始めました。なにも知らない世界に飛び込んだわけですが、ただ単に始めようと思っただけでいい。思いや感情がないところからのスタートです。もちろん、うまくならないというところはあります(笑)でもそれはあくまでも単純にうまくならないだけです。ゴルフというものに対して「何も知らない」ことからのスタートでもありませんので、とにかく教えてもらいつつ行動していくだけの繰り返しです。頭で考えることと体が動くことのギャップも激しいですが、思いがないので「言われたとおり」にやる「こと」は、一方、同じように何かを始める時、いろんな思いや感情があっただけでいいのですが、同じように知識がないということも同じであって、アドバイスを受けた行動がそのままできない人が多いことを感じています。その違いは「自分なりの熱い思いと感情」の所在ではないでしょうか。自分なりの「やり方」でやっていきたいという思いと感情が素直な行動を阻害していることは特に市民活動や事業を始める時の相談などで感じることです。自分の思い通りにやっていきたいというところと地域に必要なことをやっていくというところは、大きな差があるのだと思います。